

著名人にみる家族関係 —— 日本経済新聞「私の履歴書」より（第2報）

上野学園大短大 遠山千代子

【目的】伝記とりわけ自叙伝は、著者の人柄を余すところなく伝えるものであり、非常に興味深いものがある。第1報では、日本の各界で活躍し文化の発展に貢献した人々の成長過程における家族関係からの影響、およびその結果としての人生観・家庭観・教育観などを概観した。第2報では、特に祖父母・孫関係に焦点をあてた事例研究を行うことを目的とする。

【方法】日本経済新聞社が刊行した『私の履歴書 文化人』（全20巻）を資料とした。これは、日本経済新聞が文化欄に連載している「私の履歴書」の中から、作家、画家、芸能人、学者などを中心に編集したものである。掲載者の総数は150名であるが、その中から祖父母との関係を詳細に記述したものを取り上げ、分析対象事例とした。

【結果】まず第1報で述べたように、対象者（出生時期が明治2年～大正6年）はその人生において「家」制度の影響を強く受けた世代である。したがって祖父母・孫関係を論じる際にも現代のそれと安易に比較することは出来ないが、基本的にはかなり強固であったと推察される。それは、祖父母・孫関係が比較的短期間であったにもかかわらず、幼少時の鮮烈な印象や人格形成への多大な影響を記述する事例の多さに表れている。また、基本的には祖父母を敬愛し肯定的にとらえたものが多いが、一部には複雑な家族関係の源として批判的・否定的にとらえるものもある。なお、代表的な3類型としては、(A)両親の代理として養育にあたる養育型 (B)伝統芸術などの後継者を養成する伝承型 (C)友愛的な交流を楽しみとする情愛型 をあげることができよう。